

第224回 エフエム栃木放送番組審議会 議事録

- 1 開催年月日 平成28年12月5日(月) 16:00~17:00
- 2 開催場所 エフエム栃木 3階 第2スタジオ
- 3 委員の出席 委員総数 6人
出席委員数 4人
- (1) 出席委員の氏名 片山 貴之 (委員長)
君島 理恵 (副委員長)
青木 敬信
早川 富美子
- (2) 欠席委員の氏名 町田 明久
畠山 大
- (3) 放送事業者側出席者 関根 房三 (代表取締役社長)
床井 和夫 (業務推進本部副本部長)
佐藤 望 (放送部長)
古寺 雄史 (放送部課長)
- 4 議題 (1) 番組の試聴及び意見交換
(2) その他
(3) 次回開催日程について

5 議事の概要

(1) 番組の試聴及び意見交換

11月13日放送の特別番組「ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念
The Times They Are a-Changin'～時代は変わる～」について、試聴と意見交換を行った。

事業者

これは、FM東京制作でJFN各局がネットし、放送した特別番組です。

ミュージシャンであるボブ・ディランが2016年のノーベル文学賞を受賞したことを記念し、改めてディランの歌詞の文学性や、その曲が書かれた時代背景、社会的影響などに、ミュージシャンの小室等氏、日本文学者のロバート・キャンベル氏が迫っています。

【 番 組 の 試 聴 】

委員：

ミュージシャンであるボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞したという画期的なニュースの後、速やかに、音楽とトークというFM局の強みを活かして、ディランの音楽性の魅力とその世界観を詳細に解説した番組を放送したことは、他局制作の特番ではあるものの大きな意義がある。

委員：

番組ナビゲータのミュージシャンの小室等さんと日本文学研究者のロバート・キャンベルさんは、共にディランの音楽への造詣が深く、また、2人のトークの組み合わせは、その役割のバランスがうまくとれていた。

委員：

ライブの様子から始まった冒頭部のつかみがとても良かった。
番組全体の構成も良く、ディランの歌詞の世界を深くまで掘り下げて詳しく解説してくれた。
伝える価値のある番組だ。

委員：

「今の時代なら、ディランはラップをやってるだろう」という推察が面白かった。
ディランの音楽を知らない人にも、この番組を聴いたことをきっかけに、
認識してもらえる機会となったのではないか。

委員：

ネット番組ではあるのに、制作のFM東京と放送日が違ったのはなぜか？

事業者：

放送局としても想定外の突然の受賞であり、FM東京は制作当初、当番組の全国ネットを想定していなかったが、後日、全国ネットで放送しては、との提案があった。
ロック音楽の歌詞に改めて注目するきっかけ作りになったのではないか。

委員：

キャンベルさんはディランに関する豊富な情報を豊かなボキャブラリーで一生懸命伝えていたが、話に熱くなりすぎて、やや喋りが早かった。ディランの曲の上に乗って話していたこともあって、時折、聞き取りにくい場面もあった。

委員：

ディランのファンでない限り、番組のすべてをしっかりと聞き耳を立ててきかないと、その内容をつかみきれないと思うほど、全体的に難解な話ばかりだった。
おそらく、元々、ディランの音楽にさほど興味がなかったリスナーにとっては、喋りの合間に流れたディランの音楽がぼんやりと印象に残るだけで、特に、これが新たな興味に発展することは難しい内容になっていたのではないか。

委員：

ディランの曲を流しながら、その歌詞の日本語訳を女性アナウンサーが読む場面が時折あったが、男性アナウンサーが、もう一度英語詞をゆっくり読んだあとに、日本語訳を読む形の方がより内容が伝わったと思う。

委員：

内容は、他のメディアではなく、FM局が伝えるべき情報であり、価値のある情報だったことは確かだ。この番組を放送したことは、FM局としての使命を果たしたといえよう。

(以上)

(2) その他

なし

(3) 次回開催日程について

次回の開催を1月16日(月)とすることについて、全出席委員の了解を得た。

6 答申または改善意見に対してとった措置および年月日

なし

7 答申または意見の概要を公表した場合、公表の方法および年月日

(1) 放送 12月25日(日)午後7時55分の「レディオベリーインフォメーション」内

(2) 書面 本社事務所に備え置き

(3) インターネット エフエム栃木ホームページ内

8 その他の参考事項

なし